

大田区立つばさホーム前の浦

令和 7 年度(2025 年度) 事業報告

1, 運営方針

- (1) 利用者の権利と尊厳を守り、個性と能力に応じた支援の実践
- (2) 利用者個々の状況に即したサービスの提供と効果的な事業運営
- (3) 関係機関や地域社会との連携により、社会的な自立を目指した運営
- (4) 情報公開、法令遵守により、信頼度と透明性のある事業運営

2, 職員等配置

- ・ 正規職員 27 名
- ・ 正規職員以外 12 名（非常勤職員 12 名） 合計 39 名

3, 利用者受入等 *日数・%等は前年同期比

	定員	開所日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	稼働率		利用率	
共同生活援助	11 名	365 日	2,957 名	8.2 名	73.6%	+9.3%	92.1%	-1.0%
短期入所事業	11 名	365 日	3,579 名	9.9 名	89.1%	+11.1%		

※平均利用者数＝延べ利用者数÷開所日数（小数点第 2 位切り上げ）

※稼働率＝延べ利用者数÷（定員×開所日数）（小数点第 2 位四捨五入）

※共同生活援助利用率＝延べ利用者数÷（在籍数 8.8 名×開所日数）（小数点第 2 位四捨五入）

*新規利用者 5 名（4/1 付、6/30 付、7/3 付、9/21 付、1/10 付 各 1 名）

*退所者 3 名（4/16 付：区外グループホーム、7/1 付：区内グループホーム、11/29 付：法人内グループホーム）

4, 重点目標に対する取り組み状況

第 5 次経営改革プラン項目 I 面的支援体制整備の推進				回数・日付	人数 利：利用者 職：職員
1	地域生活支援事業および重層的支援の推進	内容	(1) 共同生活援助利用者の円滑な地域生活移行支援実施。 ⇒利用者自治会で地域のグループホームの空き情報を紹介。 ⇒本人意向を汲み取った地域移行を実施。 ⇒グループホーム家族連絡会の実施。 ⇒地域グループホームへの交流研修実施。 (2) 相談支援事業所、日中支援事業所、各関係機関との連携（障害特性・アセスメント理解）発信強化。 ⇒関係者会議への参加。 ⇒関係機関と連動した短期入所緊急利用受入の実施。	9 月 4 月～9 月 7 月、1 月 12 月 55 回 通年	利 7 名 見学 2 名 体験 1 名 延べ 11 名 職 4 名 利 46 名 職 80 名 35 名

			(3)地域連携推進会議の円滑な実施。 ⇒地域連携推進会議に向けた意見交換会実施。	2月	延べ8名
第5次経営改革プラン項目 Ⅱ 地域に根ざした公益的取り組み検討と事業化				回数・日付	人数
2	地域公益活動の強化および地域資源としての役割強化	内容	(1)施設まつり実施および地域まつり・行事等への参画。 ⇒いつつのわ幸陽祭運営委員会の実施。 ⇒いつつのわ幸陽祭の実施。 ⇒フードパントリー開催時に物品配布等を通じ利用者と来訪者の交流場面を設けた。 ⇒大森南自治会、森ヶ崎自治会盆踊りへ参加。 (2)業務継続計画(BCP)の取り組み、および地域防災連携の推進。 ⇒BCP机上訓練実施。 ⇒いつつのわ合同防災訓練への参加。	9/17、12/10 11/7 8/10 7/25・29 12/24 9/28	職10名 900人 利2名 職1名 利10名 職5名 職14名 利6名 職1名
第5次経営改革プラン項目 Ⅲ 福祉人材の確保・育成・定着				回数・日付	人数
3	利用(当事)者とともに障害福祉サービスの推進に参画できる人材育成の強化	内容	(1)職員キャリアパスに応じた中核人材の育成強化(運営と経営の意識向上を図る) ⇒新任職員OJTの期間中にトレーナーとの振り返りの機会を設定。 ⇒運営会議内で利用率、OJTの進捗、当月業務管理状況などを役職者中心に確認。 ⇒強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)の受講。 (2)明日に活かす事例検討の定例化、およびチームアプローチ支援の向上。 ⇒誤薬防止の取組(服薬支援チェックリスト・職員間での相互モニタリング) ⇒障害特性別の内部勉強会(事例検討会)と介護技術講座の実施。 内部勉強会 介護技術講座 ・自閉症 ・コミュニケーション ・行動障害 ・排泄 ・ダウン症 ・移乗 ・てんかん ・衣類着脱 ・重症心身障害 ・食事 ・高次脳機能障害・入浴 ・精神(疾患) ⇒利用者地域移行計画シート(ロードマップ)での支援進捗確認、グループホーム新規体験利用者の検討。 ⇒短期入所利用後の支援を各事業所チームで振り返り、会議内で共有し次回利用時の支援へ反映。	9回 6回 5月～2月 8回 7回 5/28 6/25 7/30 8/27 9/24 10/29 11/26 GHケア会議11回 SSケア会議12回	3名 34名 基礎研修8名 実践研修7名 全支援員 延べ109名 延べ34名 延べ46名

			⇒個別支援計画作成の為の内部勉強会（アセスメント・エコマップ・支援計画立案） （３）活動プログラムに応じたボランティア・福祉人材受入の推進。 ⇒短期入所事業でのボランティア受け入れ実施。	3 回 3 回	延べ 40 名 3 名
第 5 次経営改革プラン項目 IV 社会の動向を踏まえた持続可能な経営基盤づくり				回数・日付	人数
4	安定的な事業所運営	内容	（１）法令遵守の徹底 ⇒引継ぎ時、職員会議内で周知・確認・意見交換等を行った。 ①虐待防止・人権権利擁護関係 東京都障害虐待防止研修、介護現場におけるスリーロックについて。 ②個人情報保護に関する法令関係 個人情報の取扱いに関する注意喚起について。 ③労働安全衛生法令関係 健康企業宣言定期便、こころのセルフケア。アプリを活用した休憩時間取得の確認。 （２）ICT 化への取り組み ⇒iPod の facetime（ビデオ通話機能）を使用した、職員のフロア間の連携強化を実施。主に服薬支援場面で活用中。 （３）利用率向上を目指した事業所運営 ⇒短期入所利用者で、共同生活事業への移行利用者の支援課題を整理。下期に本人・家庭や相談支援等にアプローチを行う。 ⇒短期入所利用者の日中事業所に出向き、本人の様子見学や支援方法についての引継ぎを通じ、安心安全な新規利用・宿泊数増に繋げている。 ⇒次年度に向けた SWOT 分析（事業所の現状を把握しより良い運営に繋げていくワーク）を全支援員で実施。 （４）感染症対策委員会の実施 ⇒感染対策指針の読み合わせ。手洗いチェッカーを使用した手洗い研修を実施。 ⇒感染症マニュアルの更新。 ⇒嘔吐物処理研修 ⇒消毒液希釈量の確認・感染症対策クイズ	通年 7 月～3 月 8 月～3 月 12 回 2 月 5 月 8 月 12 月 2 月	全職員 全支援員 職 35 名 全支援員 職 14 名 職 13 名 職 14 名 職 14 名

5, 年間行事実績

4月	自治会（会則確認、自治会選挙について）、防災訓練 GH 行事（花見：森ヶ崎公園）	10月	自治会（幸陽祭練習）、防災訓練
5月	自治会（自治会長の選出、話し方について）、防災訓練	11月	自治会（地域移行利用者卒業式・初詣について）防災訓練
6月	自治会（地域移行利用者卒業式、水分補給について）、防災訓練	12月	自治会（参拝について）、防災訓練 GH 外出（大井競馬場メガイルミ）
7月	自治会（幸陽祭について、外出について①）、防災訓練	1月	自治会（栄養について）、余暇活動（書初め・正月飾りづくり） GH 外出（初詣：武蔵新田新田神社）
8月	自治会（幸陽祭について、外出について②）、防災訓練	2月	自治会（軽運動の大切さ・洗濯機掃除当番について）
9月	自治会（幸陽祭について、保健衛生について）、余暇活動（紙芝居） GH 外出（千葉マザー牧場）、防災訓練	3月	自治会（SNS の使い方、まとめ会）、防災訓練

6, 福祉人材の確保・育成・定着

	実施項目	具体的取組の内容	回数・日付	人数
1	OJT・職場内研修	(1) サービス提供ガイドライン、各種業務標準を活用して新キャリアパスに応じた OJT の実施 ⇒法人諸規定、業務マニュアルに基づく OJT の実施。 (2) 職場内研修の計画実施 ① サービス管理、障害特性・支援技術等 ⇒障害別内部勉強会、介護技術講座の実施 ② 虐待防止・権利擁護関連 ⇒個人情報に関する検討会を実施。 ⇒ハラスメント防止研修の実施。 ③ 危機管理・防災・応急救護等 ⇒普通救命講習の受講。 ④ 感染症対策・保健衛生等 ⇒手洗い研修の実施。 ⇒嘔吐物処理研修の実施。	4月～3月 7回 7月 1月 6月～2月 5月 12月	3名 延べ 109名 18名 全職員 15名 14名 14名
2	外部研修	(1) 職層・職員個別ニーズに合わせた受講計画と実施（オンライン研修の活用） ① 障がい特性 4講座 ② リスクマネジメント 5講座 ③ 利用者支援・技法 5講座 ④ 福祉サービス・制度 10講座 ⑤ 経営・運営 3講座 ⑥ その他 1講座	15回 5回 6回 10回 3回 1回	17名 全支援員 10名 39名 27名 1名

7, その他特記事項

指定管理再指定のための評価委員会にてプレゼンテーション実施（8月）。

以上